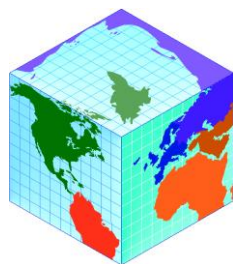


# 地理総合

## 学習目標



科目：地理総合  
履修：1年  
共通  
2単位

地理総合の学習目標は、現代世界を理解し、地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培うことにより、国際社会に主体的に生きる人としての資質を養うことにある。そのためには、身近な「もの」や「地域」から世界全体に至るまで、また、自然的な内容から経済・社会・文化に至るまで、社会に生起するあらゆる事象について関心を持ち、自らの五感を通じて考え、行動することが必要となる。

### 年間授業計画

月	学習単元	学習事項等	
前期	4	地図と地理的技能 地図化してとらえる現代世界の諸課題 さまざまな地図、図法	
	5	身近な地域の調査 学校所在地を調べる・フィールドワークの基礎 日比谷高校周辺の地理	
	6	現代世界の系統地理的考察 自然環境	地形からみた世界 大地形、小地形
	7		・2万5000分の1地形図 ・身近な地域の調査や、地図の読図や作図などを通じて、 地理的技能や、地理的な見方や考え方を養う。
9			
後期	10	気候からみた世界 熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯の自然環境	
	11	資源と産業 農林水産業からみた世界	
	12	エネルギー資源・原料資源からみた世界	
	1	工業からみた世界	
	2	人口と村落・都市 人口問題・村落機能・都市形態からみた世界 ・現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身に付ける。	
講習	特になし。		
評価の方法	定期考査（年4回） 各試験範囲ともに、50分の試験を100点満点で行う。 提出物（学校周辺の巡検、地形図、夏休みの課題等） 課題に対してどれだけ誠実に取り組み、自ら考え、行動し、表現したかを評価する。 日常の授業における意欲や、参加態度も評価の対象である。		



### 推薦図書・参考書

- 『はじめての動物地理学』増田隆一（岩波ジュニアスタートブックス）
- 『人とミルクの1万年』平田昌弘（岩波ジュニア新書）
- 『地形図を読む技術 新装版』山岡光治（サイエンス・アイ新書）
- 『三つの石で地球がわかる』藤岡換太郎（BLUE BACKS）
- 『図解 気象学入門 改訂版』古川武彦，大木勇大（BLUE BACKS）
- 『土と生命の46億年史 - 土と進化の謎に迫る』藤井一至（BLUE BACKS）

# 地理探究(4単位)・地理演習(2単位)

## 学習目標



科目：地理探究  
履修：3年  
文系必選：4単位  
文系自選：4単位

3年次の地理探究(4単位)の学習は、文類型必修選択科目あるいは文類型自由選択科目として受験を意識して行われることになる。1年次の地理総合において学んだ地理の基礎基本的な内容を踏まえて、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験、私立大学入試に向けて学力を向上させることを目標としていく。

### 年間授業計画

月	学習単元	学習事項等
前期	4	現代世界の系統地理的考察 大地形・小地形・気候・農林水産業・鉱工業・第三次産業・交通・通信・貿易・観光・人口・村落・都市・生活文化・言語・宗教・国家
	5	
	6	
	7	
	9	
後期	10	現代世界の地誌的考察 中国・朝鮮半島・東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジア・アフリカ・ヨーロッパ・ロシア・アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オーストラリア・ニュージーランド
	11	
	12	
	1	
	2	入試直前対策講座・個別指導



科目：地理演習  
履修：3年  
理系自選：2単位

3年次の地理演習(2単位)の学習は、理類型自由選択科目として行われることになる。1年次の地理総合において学んだ地理の基礎基本的な内容を踏まえて、大学入学共通テストに向けて学力を向上させることを目標としていく。

月	学習単元	学習事項等
前期	4	現代世界の系統地理的考察 大地形・小地形・気候・農林水産業・鉱工業・第三次産業・交通・通信・貿易・観光・人口・村落・都市・生活文化・言語・宗教・国家
	5	
	6	
	7	
	9	
後期	10	現代世界の地誌的考察 中国・朝鮮半島・東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジア・アフリカ・ヨーロッパ・ロシア・アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オーストラリア・ニュージーランド
	11	
	12	
	1	入試直前対策講座

講習	希望者を対象に、夏期講習と土曜講習を行う。
評価の方法	定期考査(年3回)を中心に評価を行うが、日常の授業における意欲や、参加態度も評価の対象とする。

### 推薦図書・参考書



- 『地理用語集』(山川出版社)
  - 『モンゴル草原の生活世界』小長谷有紀(朝日選書)
  - 『世界のことば』朝日ジャーナル編(朝日選書)
  - 『地球を旅する地理の本1~8』(大月書店)
- 日比谷高校図書館には、290世界地理・291日本地理の書架を中心にして、が多数あります。地域の図書館とともに積極的に利用してください。

# 歴史総合 学習目標



科目：歴史総合  
履修：1年  
共通  
2単位

歴史総合は、現在に比較的近い近現代（19世紀以降）の歴史を主に扱い、歴史の大きな変化に着目して、世界と其中的の日本を広い視野から捉える科目である。すなわち、中学校で主に学んだ我が国の歴史と世界の歴史を合わせて理解すると共に、「主題」・「問い」の設定や資料の活用を通じて「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を学ぶ。2年次の日本史・世界史探究、3年次の日本史・世界史演習につながる。

## 年間授業計画

月	学習単元	学習事項等	
前期	4 5 6 7 9	前近代のアジア諸地域と日本 近世ヨーロッパ世界の展開 英・産業革命、アメリカ独立 フランス革命 19世紀のヨーロッパ・アメリカ アジア諸地域の植民地化 日本の開国と明治維新 条約改正と産業革命 帝国主義時代と日本	まず、アジア諸地域（西アジア・南アジア・東南アジア・日本を含む東アジア）で繁栄したアジアの諸帝国を、次いで16世紀から19世紀のヨーロッパにおける世界の一体化及び「近代化」の前提となる諸要素（主権国家・工業化・国民国家）の発生過程を学び、さらに欧米諸国によるアジア諸地域の植民地化の状況を学ぶ。  18世紀以降の欧米における動向を踏まえて、開国・明治維新後の日本における立憲体制と国民国家形成を学ぶ。同時に欧米列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、帝国主義とアジアの変容を学ぶ。
		第一次世界大戦とロシア革命 戦後の国際平和と安全保障	第一次世界大戦の展開・大戦中の日本の経済成長・ロシア革命・米国の台頭、大戦後の国際協調体制を学ぶ。
後期	10 11 12	大戦間時代の世界 世界恐慌とファシズムの台頭 日本の恐慌から 満州事変・日中戦争へ 第二次世界大戦と太平洋戦争 戦後の国際秩序と日本の改革	大戦後、アジア・アフリカの民族運動の高揚、欧米・日本での大衆の政治参加や大衆消費社会の出現を学ぶ。 世界恐慌が原因となって発生したファシズムや日本の対外政策が国際協調体制を動揺させ、その結果勃発した第二次世界大戦の経緯と影響を学ぶ。そして大戦後の国際連合・国際経済体制の成立、冷戦の開始とアジアの独立、日本の戦後改革と憲法制定、主権回復を学ぶ。
	1	冷戦の展開と欧州の復興 第三世界の台頭	大戦後、米ソ両大国による冷戦が展開する中、脱植民地化を掲げてアジア・アフリカ諸国の独立が進行する一方、冷戦下の地域紛争が発生し、西欧や東南アジアでの地域統合などを学び、世界経済の拡大や経済成長下の日本の社会を理解する。冷戦終結後の各国における民主化の動きや地域紛争の激化を学び、現代の国際政治の変容と課題を理解する。
	2	日本の高度経済成長 グローバル化する世界	
講習	今のところ予定していない。		
評価の方法	評価の対象となるのは、近代以降の「世界の中の日本」を理解する上で重要な、政治・経済・思想・文化などについての客観的かつ具体的な知識と理解度、世界と日本の歴史と文化を考察する力である。学習成績の評価については、①教科書、用語集の人物・事項・年号などの基礎的知識が正確に理解・習得されているか②そのことを踏まえて歴史の諸事項について考察を加え、適切な文章として表現できるか③近現代の歴史と現代の諸課題を結びつけ、未習範囲の内容も含めて主体的・積極的に考察し、さらに自ら課題を設定することができるかの3点をポイントとし、定期考査・課題レポート・日常の取り組み等から評価する。		



推薦図書 『世界の歴史』全30巻（中央公論社）、『国境は誰のためにある？』中山大将（清水書院）  
『神・墓・学者 考古学の物語』C. W. ツェーラム（中公文庫）、『「運動」する世界史』南塚信吾（岩波書店）  
『肉食の思想』鯖田豊之（中公新書）、『砂糖の世界史』川北稔（岩波ジュニア新書）、  
『東アジアの「近世」』岸本美緒（山川出版社）、『フランス革命』遅塚忠躬（岩波ジュニア新書）、  
『感染症の近代史（日本史リブレット）』内海孝（山川出版社）、『歴史学ってなんだ？』小田中直樹（PHP新書）

# 日本史探究

## 学習目標



科目：日本史探究  
履修：2年  
共通  
2単位

わが国の歴史の展開を、わが国を取りまく国際環境と関連させ、世界史的観点に立った幅広い視野から学習する。それによってわが国の古代・中世の国家形成の経過や発展について、その歴史的意義や問題・課題についての認識を深める。

わが国の歴史的展開について、政治・経済・社会・文化・対外関係などの各分野から総合的に考察できるようにし、それによって歴史的思考力を養い、とくに日本文化の特質を考察できる基礎を養成する。

### 年間授業計画

月	学 習 単 元	学 習 事 項 等
前 期	4 5	原始時代における日本列島の特質を考える  人類の発生から、日本の旧石器文化、縄文文化・弥生文化の特質を世界的視野や大陸の状況と関連させて考察する。石器の発達や土器の発達が生活・社会の発展とどのように関わっているのかを考える。
	6	古代国家の成立とその特質
	7	古代律令国家の発展と特質
	9	日本国家形成を古墳時代の和政権の成立から考察する。渡来人の活動・仏教伝来などの大陸文化の流入などを中国・朝鮮などの国際状況や国家形成と関連させて考察する。 厩戸皇子の政治からはじまる律令国家への道筋を、社会の発展・政治状況・文化状況などの多角的視点から考察し、律令国家の具体的な姿を考察する。
後 期	10	古代国家の変質と中世社会への変化
	11	武家政治の展開と鎌倉幕府の政治
	12	平安初期における律令国家の変質、摂関政治への動きを荘園制社会の成立など土地制度の変質と関わらせて考察する。国風文化の特質も政治や社会状況と関連させて考察する。 平氏政権・鎌倉幕府の成立・執権政治・蒙古襲来などから武家政治の展開や武家社会の特質について考察し、鎌倉文化や仏教の新展開について考察する。
	1	室町幕府の成立と惣村の成立
2	戦国大名の支配体制	室町幕府の成立を中世社会の変質から考察する。守護大名の成長、惣村の成立、産業・社会の発展について学習しながら武家文化・庶民文化の形成を考察する。 近世社会形成の前提となる戦国時代の政治・経済・社会・文化について考察する。
講習	なし	
評価の方法	年4回の定期考査と、小テストや宿題などを評価の材料とする。評価対象となるのは、わが国の歴史を理解する上で重要な政治・経済・社会・文化・対外関係についての客観的な知識と理解の程度、ならびに日本史を真剣に考察しようとする歴史的考察力である。学習成績の評価では、原始・古代・中世の歴史事象や歴史用語を知識として習得したか、それによって日本の国家形成・古代国家・中世国家を客観的に理解できたかが評価のポイントとなる。	



推薦図書・参考書

『岩宿の発見』相沢忠洋著（講談社文庫）  
『飛鳥散歩』奈良県高教研著（山川出版社）  
『古代史の窓』森 浩一著（新潮文庫）  
『聖徳太子』上原和著（講談社学術文庫）  
『摂関政治』古瀬奈津子著（岩波新書）  
『官職要解』和田英松著（講談社学術文庫）  
『日本史用語集』（山川出版社）は3年生になっても使用するので便利である。

# 日本史演習

## 学習目標



科目：日本史演習  
履修：3年  
必選・自選  
4単位

わが国の歴史の展開を国際環境と関わらせ、世界史的視点に立って幅広く学習する。それによってわが国の伝統と文化について考え、認識を深めたい。

近世～近現代のわが国の歴史的展開を政治・経済・社会・文化・対外関係などの分野から総合的に考察し、柔軟な歴史的思考力を養うことで現代的問題に対処できる力を獲得することをめざすが、それと共に日本史で大学受験を突破するための高度な知識の定着をはかる。

### 年間授業計画

月	学習単元	学習事項等
前期	4 南蛮人来航と織豊政権 江戸時代の政治・経済・社会	織豊政権の成立を、ポルトガル人の来航など世界史的観点から考察する。 江戸時代の特色を現代的視点から考察し、近代への移行をさまざまな局面からさぐる。 文化の展開を伝統と近代化の2つの視点から考える。
	5 江戸時代の文化	
	6 ペリーの来航と幕末の政治情勢	列強の接近と対外危機の深まりの中でペリーの来航がどのような衝撃を以て受けとめられたかを考え、江戸幕府の滅亡過程と共に明治国家という近代国家がどのように誕生したのかを考察する。 明治維新と中央集権国家の成立についてその歴史的意義を考える。 明治憲法体制の成立と日清・日露戦争の歴史的意義について考察する。
	7 明治国家の成立と展開	
	9 立憲国家の発展と対外戦争	
	後期	10 近代産業の発達と明治の文化
11 大正時代の政治・経済・外交と市民文化		
12 太平洋戦争への道と敗戦		昭和戦前期の政治・外交についてなぜ日本が戦争に突入していかなければならなかったのかと言う視点で考える。 20世紀後半の日本の歩みを考察する。
戦後の日本と国際関係		
1 		
2 		
講習	夏期講習・土曜講習等の講習では、主に授業で不足する部分についてより深める内容となる。	
評価の方法	年3回（前期中間・期末、後期中間）の定期考査を評価の材料とする。評価対象となるのは、わが国の歴史を理解する上で重要な政治・経済・社会・文化・対外関係についての客観的知識と理解の程度、ならびに日本の文化や伝統を真剣に考察しようとする歴史的考察力である。学習成績の評価では、各時代の歴史事象や歴史用語を知識として習得し、それらの理解を通して各時代の歴史像を的確に理解できたか、が評価のポイントとなる。	



推薦図書・参考書

『近代日本の官僚』清水唯一朗著（中公新書）  
『西園寺公望』岩井忠熊著（岩波新書）  
『学歴・階級・軍隊』高田理恵子著（中公新書）  
『伊能忠敬の歩いた日本』渡辺一郎著（中公新書）  
『坂の上の雲』司馬遼太郎著（文春文庫）  
『ポーツマスの旗』吉村 昭著（新潮文庫）  
『元禄時代』大石慎三郎（岩波新書）  
日本史受験用の用語集として『日本史用語集』（山川出版社）があると便利である。

# 世界史探究

## 学習目標

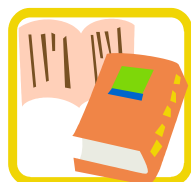


科目：世界史探究  
履修：2年  
共通  
2単位

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。「世界史探究」では、人類が文明を持ち、やがて諸地域で多様な歴史的特質が形成され、交流・再編を経て、地球規模での一体化が進行していく過程を学ぶ。

年間授業計画

月	学習単元	学習事項等	
前期	4	・文明の成立と古代文明の特質	先史時代に続き、オリエント、南アジア、中国など、各地に栄えた古代文明の歴史的特質について学ぶ。次いで、匈奴の国家と秦・漢が現れた紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には、遊牧と農耕の2つの世界が並び立ち、7世紀に可汗と皇帝を兼ねた唐の君主がこれらを統合していく過程を学ぶ。  南アジア世界および東南アジア世界の展開について学ぶ。次いで、地中海文明が、ギリシアやヘレニズム国家を経て、ローマ帝国へと発展していく過程を学ぶ。さらに、7世紀に成立したイスラーム世界と、ヨーロッパ世界の形成について、西アジアとヨーロッパの相互関係に着目しながら理解を深める。
	5	・中央ユーラシアと東アジア世界	
	6	・南アジア世界と東南アジア世界の展開	
	7	・西アジアと地中海周辺の世界形成	
後期	9	・イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向	広範な地域に大きな影響を与えたイスラーム教の伝播や、モンゴル帝国の時代から本格化する海と陸の交流などにより、諸地域の交流・再編が活発化していく。ここでは、大交易・大交流の時代を経て、一体化に向かう世界と諸地域の変貌について学ぶ。  ヨーロッパ世界のルネサンス・宗教改革を通して、中世から近世への移行を学ぶ。また、16世紀以降の各国史を学び、主権国家体制の成立、重商主義政策、植民地の争奪とその影響などについて考察する。次いで、アジアでは、オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国・清朝などが繁栄したことを学ぶ。
	10	・東アジア世界の展開とモンゴル帝国	
	11	・ヨーロッパ世界の変容と展開	
	12	・大交易・大交流の時代	
	1	・近世ヨーロッパ世界の動向	
2	・アジアの諸帝国の繁栄		
講習	特になし。		
評価の方法	年4回の定期考査を実施する。評価の対象は、政治・経済・思想・文化などに関する、客観的かつ具体的な知識と理解力、および史資料を正しく読みとって活用する、思考力・判断力である。学習評価の観点には、教科書、用語集の人物・事項・年号などの基礎的知識が正確に習得されているか、そのことをふまえて歴史的事象を正しく把握し、適切な文章として表現できるかなどである。なお、学習評価の観点には、課題意識や学習への見通しをもって、主体的に学習に取り組もうとしているかも含まれる。		



推薦図書

『世界の歴史』全30巻（中央公論社）、『興亡の世界史』全21巻（講談社）、  
『神・墓・学者 考古学の物語』C. W. ツェーラム（中公文庫）、  
『アジアの歴史』松田壽男（岩波現代文庫）、『イスラーム帝国のジハード』小杉泰（講談社）、  
『肉食の思想』鯖田豊之（中公新書）、『砂糖の世界史』川北稔（岩波ジュニア新書）、  
『東アジアの「近世」』岸本美緒（山川出版社）、『フランス革命』遅塚忠躬（岩波ジュニア新書）、  
『近代国家への模索』川島真（岩波新書）、『そうだったのか現代史』池上彰（集英社文庫）、  
『歴史学ってなんだ？』小田中直樹（PHP 新書）

# 世界史演習

## 学習目標



科目：世界史演習  
履修：3年  
文選・自選  
4単位

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史に関連付けながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い分野から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる一員としての自覚と資質を育成する。3年次には、2年次の学習の続きとなる18世紀後半の近代から21世紀の現代までの歴史を学び、世界史学習を完成させることを目標とする。

### 年間授業計画

月	学習単元	学習事項等
前期	4	・産業革命と環大西洋革命 産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命・ナポレオン時代について学び、産業革命による工業化と、市民革命による近代市民社会の形成過程を理解する。
	5	・イギリスの優位と欧米国民国家の形成 19世紀前半のウィーン体制期に自由主義やナショナリズムが欧州に浸透し、1848年革命やクリミア戦争後、独伊両国が独立し、米国が南北戦争後発展したことを学ぶ。
	6	・アジア諸地域の動揺 19世紀に入って、ヨーロッパ勢力のアジア諸国への干渉・植民地化が本格化し、一方アジア諸国ではヨーロッパに対抗して様々なレベルでの近代化が進行したことを学ぶ。
	7	・帝国主義とアジアの民族運動 第2次産業革命以降、欧米諸国で生じた帝国主義が世界分割に進展すると同時に、アジア諸国の民族運動を喚起する一方、第一次世界大戦につながっていく状況を学ぶ。
	9	・二つの世界大戦 史上初の総力戦となった第一次世界大戦の経過と結果、そして大戦後の平和の実現が世界恐慌とファシズムの台頭で変容し、第二次世界大戦へと向かった状況を学ぶ。
後期	10	・冷戦と第三世界の台頭 第二次世界大戦後、米ソ両大国間の冷戦が進行する一方、アジア・アフリカ諸民族の独立も進み、経済格差や民族紛争・環境破壊など様々な問題が発生したことを学ぶ。
	11	・冷戦の終結と今日の世界 冷戦の終結・東欧の自由化・ソ連消滅後の世界では、資本主義優位の下、グローバル化や地域統合が進行し、新たな局面に至っていることを理解する。
	12	入試対策直前講座・論述個別指導
	1	
講習	土曜講習・夏期講習では、各地域史・各国史・テーマ史・同時代等の講義・演習や、国公立大学2次試験の論述問題演習等を行う。	
評価の方法	年3回の定期考査のほか、単元ごとの小テストや課題・提出物を総合して評価する。考査においては、まず、歴史の流れを正しく理解し、人物・事項などの基礎的な知識を習得しているかが評価のポイントとなる。次に、歴史的事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して、歴史の流れと時代の特徴を読み解き、適切に表現できるかを見る。なお、学習評価の観点には、課題意識や学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしているかも含まれる。	



推薦図書

『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会）  
『新しい世界史へ』羽田正（岩波新書） 『なぜ歴史を学ぶのか』リン・ハント（岩波書店）  
『世界史序説 アジア史から一望する』岡本隆司（ちくま新書）  
『ハーメルンの笛吹男』阿部謹也（ちくま学芸文庫）  
『人文学の接近法 西洋史を学ぶ』服部良久、南川高志、小山哲、金澤周作編（京都大学学術出版会）『イギリス帝国の歴史』秋田茂（中公新書）『世界システム論講義』川北稔（ちくま学芸文庫）  
『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』小野寺拓也 田野大輔（岩波ブックレット）  
『20世紀の歴史』木畑洋一（岩波新書）  
『想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』アンダーソン（NTT出版）

# 公 共

# 学習目標



科目：公共  
履修：1年  
共通  
2単位

年間授業計画

公共は、今までに学んだ人間や社会についての見方・考え方や学習の中で身に付けた資質・能力を用いながら、現実社会の諸課題の解決に向け、社会とのかかわりを踏まえ、社会に参画する主体として自立し、他者と協働してよりよい社会の形成者となる資質・能力の基礎を身に付けることを目標としている。社会の一員としてよりよく生きるための社会生活にかかわる基礎的・基本的な知識の習得とその活用である思考・判断・表現などの能力を磨き、課題解決能力を高める。

月	学 習 単 元	学 習 事 項 等
前 期	4 公共的の扉 ・ 公共的な空間を作る私たち	・ 青年期／個性と人格／多様性と共通性／自己実現／ 伝統や文化／宗教 などについての基本的事項を学び、 人間としての在り方について考察する。
	5	
	6 ・ 公共的な空間における 人間としてのあり方生き方 ・ 環境保護 ・ 生命倫理	・ 幸福、正義、公正／環境保護／生命倫理／ 現代思想の源流 などの概略について学び、自己の選 択・判断の手掛かりとして現代の諸課題を意欲的に追究す る態度を養う。
	7 公共的な空間における基本原理	
9	・ 人権思想／民主政治の基本原理／法の支配／自由権利 と責任義務／世界の政治体制／日本国憲法の基礎にある考 え方などについて理解し、公平・公正の観点から考察する。	
後 期	10 自立した主体としてよりよい 社会の形成に参画する私たち ・ 法にかかわる事項	・ 法や規範の意義および役割／契約と消費者／司法参加の 意義 ・ 政治参加と世論の形成／地方自治／国家と安全保障／ 国際貢献 ・ 職業選択／雇用と労働問題／財政と租税／社会保障／ 市場経済／金融／国際経済 以上の事項を学びながら、現代社会でよりよく生きるため に必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を身に付 ける。
	11 ・ 政治にかかわる事項 ・ 経済にかかわる事項	
	12	
	1 持続可能な社会づくりの主体と なる私たち 2 ・ 課題探究活動と発表	・ これまでに学習したことに基づいて自ら課題設定をし、 探究活動を行う。また探究の過程や成果を各グループごと に発表する（プレゼンテーション）。
講 習	希望者対象として、夏季休業中や学校行事の振替休業日などに官公庁見学や裁判傍聴学習を実施予定。	
評 価 の 方 法	年4回の定期考査と、グループワークや討論への取り組み、発表や探究課題を評価の材料とする。評価対象となるのは、教科書の基本的事項についての客観的な知識と理解の程度、ならびに正確な知識と理解に基づいて資料などの情報を正確に読み取り判断し、多面的・多角的に考察し、他人に理解されうるように意見を表明する表現力。そして自己の倫理的主体としての活動に必要な情報を、諸資料から調べまとめる技能である。その他主体的に学習に取り組む態度の評価では、提出課題の内容や相互評価、各自のポートフォリオなどを手掛かりとする。	



## 推薦図書

- 『赤頭巾ちゃん気をつけて』 庄司薫（新潮文庫）
  - 『戦後経済史 私たちはどこで間違えたのか』 野口悠紀雄（日経ビジネス人文庫）
  - 『あらためて教養とは』 村上陽一郎（新潮文庫）
  - 『日本の思想』 丸山真男（岩波新書）
  - 『読書について』 小林秀雄（中央公論社）
- ※著者はすべて日比谷高校の先輩です。

# 倫理

## 学習目標

科目：倫理  
履修：3年  
自選  
2単位



人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。また、生徒の興味や関心に応える教材精選に努め、受講者の大学入学共通テスト得点率9割を学習の到達目標とする。

### 年間授業計画

月	学 習 単 元	学 習 事 項 等
前 期	4 ギリシア思想 キリスト教	ヘレニズム時代の思想（エピクロス派、ストア派） キリスト教の誕生と展開（パウロ、アウグスティヌス等）
	5 仏教 イスラーム	仏教の成立と展開（上座部仏教、大乘仏教、空、唯識） イスラームの成立と展開
	6 ルネサンスと宗教改革 近代哲学の成立 民主社会の形成	ルネサンス、宗教改革の思想家 経験論と合理論（ベーコン、デカルト） 社会契約説（ホッブズ、ロック、ルソー）
	7 自由の実現 社会の進歩	人倫（ヘーゲル、カント） 功利主義とプラグマティズム（ベンサム、デューイ等）
後 期	9 主体性の自覚 人間への新たな問い	実存主義（キルケゴール、ニーチェ等） フランクフルト学派、構造主義（ハーバーマス等）
	10 中国思想	儒学の成立と展開、老荘思想
	11 特別時間割	大学入学共通テスト直前対策
	12	
	1	
講 習	2	
	夏期講習で日本思想を扱う予定	
評 価 の 方 法		年3回の定期考査を評価の材料とする。考査は、対象範囲について、大学入試共通テストと同じ形式で行う。大学入試共通テストに出題される難易度の問題に対する正確な知識と理解を習得できたかが評価のポイントとなる。



推薦図書・参考書

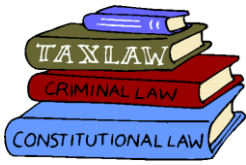
『国家』プラトン（岩波文庫）  
『諸子百家－中国古代の思想家たち－』貝塚茂樹（岩波新書）  
『ブッダのことば』中村元訳（岩波文庫）  
『哲学入門』ヤスパース（新潮文庫）  
『方法叙説』デカルト（岩波文庫）  
『養生訓』貝原益軒（丸善ライブラリー640）

※ 簡便な受験参考書として、清水書院や山川出版社の、『一問一答集』がある。

# 政治・経済

## 学習目標

科目：政治・経済  
履修：3年  
共通  
2単位



広い視野に立って、現代の社会を主体的に考察し、理解を深める、その中で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。必修においては、民主主義の原理を学び、社会を貫く人権保障の考え方を身につけ、それを保障するための政治制度を考察する。また経済分野において市場経済のしくみや金融財政などの基本原理を学ぶ。1年を通して冷静な頭脳と温かい心情をもつリーダーを育てる授業とする。

### 年間授業計画

月	学 習 単 元	学 習 事 項 等
前 期	4 市場経済の機能と限界 ・経済活動と市場 ・経済主体と経済循環	経済の役割と、価格決定のメカニズム、市場経済における人々の選択について理解を深め、考察する。 三つの経済主体の活動と経済循環について理解を深める。株式会社のしくみと株主の関係、企業の社会的責任のあり方について理解を深め、考察する。
	5 ・国民経済の大きさと経済成長	ストックとフローの概念、GDPなどの指標、経済成長の要因や成長率の違いについて理解を深める。
	6 ・物価と景気変動	インフレ・デフレの原因と影響、景気変動のしくみについて理解を深め、政府の施策のあり方を考察する。
	7 日本の政党政治と選挙制度	政党の意義と役割を理解し、日本の政党政治や選挙の課題について考察する。
後 期	8 財政及び租税のあり方 ・財政のしくみ ・租税のしくみ	財政の機能としくみ、租税の種類やその特徴について理解を深める。日本の財政問題について考察する。
	10 金融のしくみとはたらき	金融の働きと中央銀行としての日本銀行を含む金融機関の役割について理解を深め、現代の金融や金融政策の課題について考察する。
	11 労働問題・社会保障	現代日本の労働問題や労働環境をめぐる課題について考察するとともに、社会保障の現状について理解を深め、セーフティネットや人権保障の観点からそのあり方について考察する。
	12 地方自治	身近な政治の場である地方自治の現状と課題について理解を深め、その課題を考察し、政治参加への意識を高める。
	1 共通テスト対策など	共通テストレベルの問題演習を行う。
	2	
講 習	希望者を対象に、必修・自選で詳しく触れられない部分について夏期講習を行う。 12月以降の特別時間割は共通テスト対策とする。	
評 価 の 方 法	年3回の定期考査だけでなく、授業における活動や課題への取り組み、出席状況なども評価の対象である。定期考査の出題形式は、授業での取り組みや基本的事項の確認であり、「政治・経済」を理解し、主体的な市民として活動していく上での必要な知識、思考の確認を行う。基準として共通テスト受験レベルの知識・技能、思考・判断力の確認とともに授業における学習の復習である。表現力や主体的に学ぶ態度は、授業内課題や「自由課題」などによっても評価する。	